



ひ からだ
皮膚が「体のガードマン」といわれるのはどうして

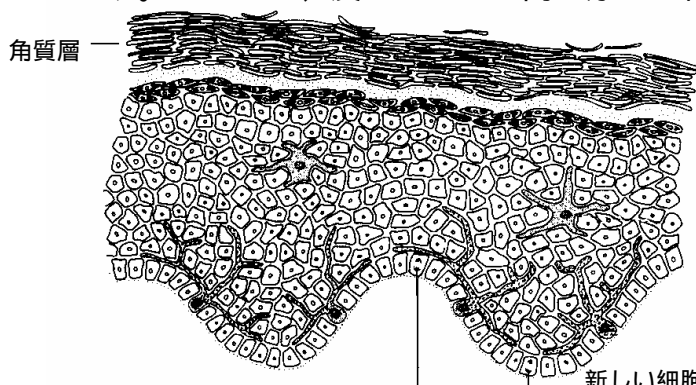
からだ まも
わたしたちの体を守る、三つのはたらきをしている

にんげん からだ ひ は、 からだ ひょうめんぜんたい をおおっており、 からだ そと から、いろいろな がい害になるものから、 からだ まも体を守ったり、 たいおん ちょうせつ体温の調節をしたり、 あつ つめ熱い冷たいなど、いろいろなものを かん感じるといった、わたしたちの からだ まも体を守るための、三つのはたらきをしています。そのため、「からだ体のガードマン」といわれているのです。

きん からだ まも
「あか」は、ばい菌から体を守っている

ひ そとがわ じゆん 順に、ひょうひ しんぴ 表皮、真皮、ひ かそしき わ 皮下組織に分かれています。そして、「あか」は、ひ ひょうめん さいぼう 皮膚のいちばん表面の細胞が、すこ 少しずつはがれ落ちたもので、お はがれ落ちる ひ 皮膚と、きん あせ ごみやばい菌や汗などが、いっしょになったものです。「あか」が と 取れることによって、ひ 皮膚についている きん と ごみやばい菌も取れます。ですから、「あか」は、きん からだ まも ばい菌から体を守る、たいせつ 大切な はたらき はたらきをしているといえるのです。

ひ ひょうめん 皮膚の表面では、ふる 古くなって死んだ細胞が、「あか」となるとはがれ落ちますが、ひ 皮膚の ひょうひ 表皮の ふか いちばん深いところでは、あたら 新しい さいぼう 細胞が つぎつぎ どんどんできて、つぎつぎ 次々と ひ 皮膚をつけ加えています。そのため、ひ 皮膚は おな あつ たも いつも同じ厚さを保っていられます。(監修・保志 宏)



角質層

表皮のしくみ



新しい細胞をつくっている細胞

